

基 本 計 画 書

基 本 計 画									
事 項		記 入 欄						備 考	
計 画 の 区 分		大学院の設置							
フ リ ガ ナ 設 置 者		ガクウアカデミー サンイクアカデミー 学校法人 三育学院							
フ リ ガ ナ 大 学 の 名 称		サンイクアカデミーカレッジカレッジ 三育学院大学大学院（Saniku Gakuin College Graduate School）							
大 学 本 部 の 位 置		千葉県夷隅郡大多喜町久我原1500番地							
大 学 の 目 的		三育学院大学大学院は、キリスト教精神を基盤とした建学の理念に則り、看護学の深奥を究めるために、学術の理論並びに応用を教授研究し、もって人類の保健医療福祉分野に貢献する人材を育成することを目的とする。							
新 設 学 部 等 の 目 的		本学大学院看護学研究科の人材育成に関する目的及び教育研究上の目的は次のとおりとする。 実践の場で抱いた問題意識や実践の根拠について、研究的に発展させ、実践と研究が融合する高度の実践能力を修得し、指導的実践者の育成をする。また、各専攻分野の看護学を精深し、研究能力を有する教育者・研究者の育成を目的とする。							
新 設 学 部 等 の 概 要	新 設 学 部 等 の 名 称		入 学 定 員	編 入 学 定 員	収 容 定 員	学 位 又 は 称 号	開 設 時 期 及 び 開 設 年 次	所 在 地	[基礎となる学部] 看護学部看護学科 14条特例の実施
	看護学研究科 [Graduate School of Nursing] 看護学専攻（修士課程） [Master's Course in Nursing]	年	人	年次 人	人	修士 （看護学） [Master's of Nursing]	年 月 第 年次	東京都杉並区天沼三丁目191番地24	
	計	2	5	－	10		平成32年4月 第1年次		
同一設置者内における 変 更 状 況 （ 定 員 の 移 行 ， 名 称 の 変 更 等 ）		該当なし							
教 育 課 程	新 設 学 部 等 の 名 称	開 設 する 授 業 科 目 の 総 数				卒 業 要 件 単 位 数			
		講 義	演 習	実 習	計				
	看護学研究科 看護学専攻 （修士課程）	15 科目	8 科目	0 科目	23 科目	30 単位			
教 員 組 織 の 概 要	学 部 等 の 名 称			専任教員等					兼任 教員等
				教授	准教授	講師	助教	計	
	新 設 分	看護学研究科 看護学専攻（修士課程）	人 12 (12)	人 4 (4)	人 0 (0)	人 0 (0)	人 16 (16)	人 0 (0)	人 12 (12)
		計	12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	－ (－)
	既 設 分	該当なし	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
		計	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)	－ (－)
合 計			12 (12)	4 (4)	0 (0)	0 (0)	16 (16)	0 (0)	－ (－)

教員以外の職員の概要	職 種		専 任		兼 任		計		大学全体						
	事 務 職 員		13 (13)		3 (3)		16 (16)								
	技 術 職 員		3 (3)		1 (1)		4 (4)								
	図 書 館 専 門 職 員		1 (1)		1 (1)		2 (2)								
	そ の 他 の 職 員		4 (4)		0 (0)		4 (4)								
	計		21 (21)		5 (5)		26 (26)								
校 地 等	区 分		専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		大多喜校地103,579㎡ 東京校地844.46㎡ ・東京校地の内、427.94㎡借用、借用期間(平成30年～40年)その後10年間の更新 ・大多喜校地を専門学校三育学院カレッジ(収容定員74人、千葉県所轄)と共用				
	校 舎 敷 地		28,515.46 ㎡		0.00 ㎡		300.00 ㎡		28,815.46 ㎡						
	運 動 場 用 地		0 ㎡		25,636.00 ㎡		0 ㎡		25,636.00 ㎡						
	小 計		28,515.46 ㎡		25,636.00 ㎡		300.00 ㎡		54,451.46 ㎡						
	そ の 他		0 ㎡		49,972.00 ㎡		0 ㎡		49,972.00 ㎡						
	合 計		28,515.46 ㎡		75,608.00 ㎡		300.00 ㎡		104,423.46 ㎡						
校 舎			専 用		共 用		共用する他の学校等の専用		計		・大多喜校舎を専門学校三育学院カレッジ(必要面積225㎡)と共用				
			5,372.31 ㎡ (5,372.31 ㎡)		1,451.50 ㎡ (1,451.50 ㎡)		529.11 ㎡ (529.11 ㎡)		7,352.92 ㎡ (7,352.92 ㎡)						
教室等		講義室		演習室		実験実習室		情報処理学習施設		語学学習施設		大学全体			
		14 室		3 室		6 室		1 室 (補助職員 0人)		0 室 (補助職員 0人)					
専 任 教 員 研 究 室				新設学部等の名称				室 数							
				看護学研究科 看護学専攻(修士課程)				26 室							
図 書 ・ 設 備	新設学部等の名称		図書 〔うち外国書〕冊		学術雑誌 〔うち外国書〕種		電子ジャーナル 〔うち外国書〕		視聴覚資料 点		機械・器具 点		標本 点		
	看護学研究科 看護学専攻 (修士課程)		14,837 [347] (14,456 [156])		151 [33] (140 [33])		34 [6] (23 [6])		315 (315)		1,793 (1,793)		101 (101)		
	計		14,837 [347] (14,456 [156])		151 [33] (140 [33])		34 [6] (23 [6])		315 (315)		1,793 (1,793)		101 (101)		
図書館			面積			閲覧座席数			収 納 可 能 冊 数			大学と共用			
			615.06 ㎡			90			70,000						
体育館			面積			体育館以外のスポーツ施設の概要									
			763.27 ㎡			テニスコート2面			多目的運動場 1面						
経 費 の 見 積 り 及 び 維 持 方 法 の 概 要	経費の見積り	区 分		開設前年度	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	図書購入費には電子ジャーナルに関する費用を含む 卒業生、系列病院からの入学者は入学金免除				
		教員1人当たり研究費等			400千円	400千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
		共同研究費等			2400千円	2400千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
		図書購入費		3871千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
		設備購入費		－ 千円	1715千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円	－ 千円					
	学生1人当たり納付金		第1年次 1,050千円	第2年次 800千円	第3年次 － 千円	第4年次 － 千円	第5年次 － 千円	第6年次 － 千円							
学生納付金以外の維持方法の概要				私立大学等経常費補助金、寄付金、資産運用収入、雑収入等											
既 設 大 学 等 の 状 況	大 学 の 名 称		三育学院大学												
	学 部 等 の 名 称		修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	定員超過率	開設年度	所 在 地					
	看護学部 看護学科		4年	50人	年次一人	200人	学士(看護学)	0.99倍	平成20年度	千葉県夷隅郡大多喜町久我原1500番地					
附属施設の概要			該当なし												

教 育 課 程 等 の 概 要																
(看護学研究科看護学専攻)																
科目 区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考	
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手		
共通科目		キリスト教人間学	1前	2			○			1					兼1	オムニバス
		保健医療福祉連携特論	1後	2			○			2						オムニバス
		看護研究方法論Ⅰ（総論）	1前	2			○			2					兼2	オムニバス
		看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	1後	2			○			2						オムニバス
		看護理論	1・2前		2		○			1					兼1	オムニバス
		看護管理学	1・2後		2		○				1					オムニバス
		実験的行動分析学特論	1・2後		2		○								兼2	オムニバス
		小計（7科目）	－	8	6	0	－			6	1	0	0	0		兼7
専門科目	普遍実践看護学分野	スピリチュアルケア特論	1・2前		2		○			1					兼3	オムニバス
		看護教育学特論	1・2前		2		○			2						兼1
		看護技術特論	1・2前		2		○				1				兼1	
		感染看護学特論	1・2前		2		○			1						共同
		普遍実践看護学演習ⅠA（事例分析）	1前		2			○		4	1				共同	
		普遍実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）	1後		2			○		4	1				共同	
		普遍実践看護学演習Ⅱ（文献講読）	1通		4			○		4	1				共同	
		小計（7科目）	－	0	16		－			4	1	0	0	0	兼5	－
	特定実践看護学分野	成育看護学特論	1・2前		2		○			1	1				兼1	オムニバス
		成人看護学特論	1・2前		2		○			2	1					オムニバス
		高齢者看護学特論	1・2前		2		○			2						オムニバス
		地域看護学特論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス
		特定実践看護学演習ⅠA（事例分析）	1前		2			○		6	3					共同
		特定実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）	1後		2			○		6	3					共同
		特定実践看護学演習Ⅱ（文献講読）	1通		4			○		6	3					共同
		小計（7科目）	－	0	16		－			6	3	0	0	0	兼1	－
研究科目	特別研究Ⅰ	1通	4				○		12	3						
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		12	3						
	小計（2科目）	－	8	0	0	－			12	3	0	0	0	0	－	
合計（23科目）			－	16	38	0	－			12	4	0	0	0	兼12	
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）							
卒業要件及び履修方法									授業期間等							
・標準修業年限2年以上在学 ・「共通科目」において、必修科目8単位を含め、選択科目から2単位以上、計10単位以上 ・「専門科目」において、主として専攻する特論2単位 ・主として専攻する特論に関する演習ⅠA、演習ⅠBと演習Ⅱ、計8単位 ・主として専攻する特論が含まれる分野以外の講義科目から2単位以上 ・特別研究Ⅰと特別研究Ⅱの8単位 ・合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。									1学年の学期区分			2期				
									1学期の授業期間			15週				
									1時限の授業時間			90分				

教 育 課 程 等 の 概 要

(看護学研究科看護学専攻)

科目区分		授業科目の名称	配当年次	単位数			授業形態			専任教員等の配置					備考		
				必修	選択	自由	講義	演習	実験・実習	教授	准教授	講師	助教	助手			
共通科目		キリスト教人間学	1前	2			○			1						兼1	オムニバス
		保健医療福祉連携特論	1後	2			○			2							オムニバス
		看護研究方法論Ⅰ（総論）	1前	2			○			2						兼2	オムニバス
		看護研究方法論Ⅱ（量的研究・質的研究）	1後	2			○			2							オムニバス
		看護理論	1・2前		2		○			1						兼1	オムニバス
		看護管理学	1・2後		2		○				1					兼2	オムニバス
		実験的行動分析学特論	1・2後		2		○									兼1	
		小計（7科目）	—	8	6	0	—			6	1	0	0	0	兼7	—	
専門科目	普遍実践看護学分野	スピリチュアルケア特論	1・2前		2		○			1						兼3	オムニバス
		看護教育学特論	1・2前		2		○			2							兼1
		看護技術特論	1・2前		2		○				1					オムニバス・一部共同	
		感染看護学特論	1・2前		2		○			1						共同	
		普遍実践看護学演習ⅠA（事例分析）	1前		2			○		4	1				共同		
		普遍実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）	1後		2			○		4	1				共同		
		普遍実践看護学演習Ⅱ（文献講読）	1通		4			○		4	1				共同		
		小計（7科目）	—	0	16		—			4	1	0	0	0	兼5	—	
	特定実践看護学分野	成育看護学特論	1・2前		2		○			1	1					兼1	オムニバス
		成人看護学特論	1・2前		2		○			2	1						オムニバス
		高齢者看護学特論	1・2前		2		○			2						オムニバス	
		地域看護学特論	1・2前		2		○			1	1					オムニバス	
		特定実践看護学演習ⅠA（事例分析）	1前		2			○		6	3					共同	
		特定実践看護学演習ⅠB（フィールドワーク）	1後		2			○		6	3					共同	
		特定実践看護学演習Ⅱ（文献講読）	1通		4			○		6	3					共同	
		小計（7科目）	—	0	16		—			6	3	0	0	0	兼1	—	
研究科目	特別研究Ⅰ	1通	4				○		12	3							
	特別研究Ⅱ	2通	4				○		12	3							
	小計（2科目）	—	8	0	0	—			12	3	0	0	0	0	—		
合計（23科目）			—	16	38	0	—			12	4	0	0	0	兼12		
学位又は称号		修士（看護学）			学位又は学科の分野				保健衛生学関係（看護学関係）								
卒業要件及び履修方法							授業期間等										
・標準修業年限2年以上在学 ・「共通科目」において、必修科目8単位を含め、選択科目から2単位以上、計10単位以上 ・「専門科目」において、主として専攻する特論2単位 ・主として専攻する特論に関する演習ⅠA、演習ⅠBと演習Ⅱ、計8単位 ・主として専攻する特論が含まれる分野以外の講義科目から2単位以上 ・特別研究Ⅰと特別研究Ⅱの8単位 ・合計30単位以上を修得し、必要な研究指導を受け、修士論文の審査及び最終試験に合格しなければならない。							1学年の学期区分					2期					
							1学期の授業期間					15週					
							1時限の授業時間					90分					

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	キリスト教人間学	（概要）人間とは何か、人間をどう理解すればよいのか、人間の抱える問題とは何か、といった人間観をめぐる課題を、キリスト教的視点を基礎に古今の多様な人間観と折衝させつつ検討し、自らの人間観の確立を目指す。人間を対象とする看護職にとって重要な課題になるはずである。看護学諸研究、とりわけスピリチュアルケア研究の背景・基礎をなす科目である。	
	保健医療福祉連携特論	（概要）わが国の超高齢・少子社会を迎え保健医療福祉、年金制度や政策は大きく変化している。看護職は対象者理解のためにこれらの動向を踏まえて活動することは必要不可欠である。変動する現代社会における保健・医療・福祉に関する問題を社会的視点から把握するとともに、国・都道府県・市町村の各レベルにおける健康に関する行政課題・対策および連携について理解し、看護活動実践に繋げる。本科目の単位認定教員は篠原清夫である。 （オムニバス方式／全15回） （7 篠原清夫／7回） 社会学の立場から、今日の社会における保健医療福祉制度の意義と課題及び将来展望について考える。 （ 10 丸山美知子／6回） 保健師の立場から地域における公衆衛生の現状と課題を通して、看護職者の役割について検討する。さらに、杉並区および大多喜町における保健医療福祉の施策の現状と課題を取り上げ、それぞれの特徴と看護職の役割について検討する。 （25 西野俊宏／2回） 第2次救急病院の病院長の立場から、地域貢献の現状に触れ、課題について検討する。	オムニバス方式
	看護研究方法論Ⅰ （総論）	（概要）看護研究論文の作成に必要な基礎知識として、看護研究における研究の動向、研究の種類、研究デザイン、研究プロセス、研究課題の明確化、文献検討の意義と文献検索の方法、研究倫理と研究における倫理的配慮、研究計画書の作成方法、研究論文の構成と作成の基本的な手法、研究発表と討論、倫理審査申請書の作成方法、研究成果の活用、研究論文のクリティークの視点と方法等について教授する。本科目の単位認定教員は小川妙子である。 （オムニバス方式／全15回） （ 2 小川妙子／10回） 看護研究における研究の動向、研究の種類、研究デザイン、研究プロセスについて教授し、研究課題の明確化、文献検討、研究倫理と研究における倫理的配慮、研究計画書の作成方法について教授する。 （ 8 廣瀬幸美／5回） 研究論文の構成と作成の基本的な手法、研究発表と討論、研究成果の活用、倫理審査申請書の作成方法、研究論文のクリティークの視点と方法について教授する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通 科目	看護研究方法論Ⅱ （量的研究・質的研究）	（概要） 看護研究方法としての量的研究と質的研究の特徴と研究プロセスを学び、それぞれに特有なデータ収集方法およびデータ分析についての具体的な手法を理解することで、EBNを実践するための研究に結びつける知識と技能を養う。本科目の単位認定教員は鈴木純恵である。 （オムニバス方式／15回） (7 篠原清夫／8回) 疫学について概観し、調査方法の進め方、研究目的と仮説、横断的研究、縦断的研究、仮説検定（単変量と多変量解析）、疫学とEBN について教授する。 (6 鈴木純恵／3回) Grounded Theory Approachの方法論を概説し、看護研究における活用の可能性について探る。 (23 中谷啓子／2回) 内容分析の方法論を概説し、看護研究における活用の可能性について探る。 (26 西村ユミ／2回) 現象学的アプローチの方法論を概説し、看護研究における活用の可能性について探る。	オムニバス方式
	看護理論	（概要）時代背景や社会との関係において看護理論の意味と意義を理解し、現存する主な理論について理解を深める。異文化で生まれ発展してきた看護理論から、日本の文化や価値観に即した看護理論の活用について探求する。本科目の単位認定教員は廣瀬幸美である。 （オムニバス方式／全15回） (8 廣瀬幸美／5回) 科目の概要と進め方についてガイダンスし、看護実践における看護理論の重要性について教授するとともに、理論分析の実際を通して看護理論の活用について探求する。 (22 筒井真優美／10回) 看護とは何か一問いかけの意味について考察し、看護理論の背景にある社会や看護についてグローバルな視点から教授するとともに、看護理論の分析・クリティークの視点を提示し、各自が提示された理論家から関心のある理論を選択し臨床における課題を追究する。	オムニバス方式
	看護管理学	（概要）看護管理学における基本的概念・理論について体系的に学びを深め、看護専門職としての使命と倫理的責任を果たすことのできる知識・技術・態度の統合した「看護管理者」であるために、各自の実践を元に実学として探求し、経験・現場学習を展開する。特に看護におけるナレッジマネジメントについて検討し「看護という知」の特徴を踏まえ、看護の概念化と管理行動との関係が品質や生産性に及ぼす影響等について学ぶ。本科目の単位認定教員は村上寛である。 （オムニバス方式／全15回） (14 村上寛／4回) 看護管理の理論・概念、看護の質と病院経営や人材確保と育成について学び、病院組織における看護組織の在り方について探究する。 (21 陣田泰子8／回) 看護現場学の観点から看護管理者の役割について検討し、看護におけるナレッジマネジメントの観点から、看護の概念化と管理行動との関係が品質や生産性に及ぼす影響について探求する。 (27 平野美理香／3回) 中規模病院における看護管理の在り方について、地域包括ケアシステムの実際や高齢入院患者の現状と課題について事例を通して探求する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
共通科目	実験的行動分析学 特論	（概要）実験的行動分析学によって明らかにされた「行動の原理」を基にして、私たちの行動を環境に適した方向に改変するための方法論が応用行動分析学である。その意味で、行動分析学の知見は、医療や看護、あるいは福祉に活かすことができる。本科目では、基礎と応用の行動分析学を紹介しながら、どのようにすれば私たちの行動の問題（行動変容等）を解決していくことができるのかについて講義する。	
専門科目	普遍実践看護学分野 スピリチュアルケア 特論	（概要）看護におけるスピリチュアルケアのための諸理論・概念を検討し、国内外におけるスピリチュアリティ研究の動向や研究成果を吟味するとともに、事例分析を通して人間性の核心に触れていく。さらにスピリチュアルケア実践の分析結果を踏まえて、危機・悲嘆の状態にある患者・家族が抱える苦悩を包括的に理解し、スピリチュアルケアの果たす役割と機能について探求する。本科目の単位認定教員は本郷久美子である。 （オムニバス方式／15回） （ 9 ）本郷久美子／9回） スピリチュアルケアとホリスティックナーシングについて概説し、国内外におけるスピリチュアルケアの事例分析とその背景を通して、スピリチュアリティの構造と機能について探求する。 （23 中谷啓子／2回） わが国におけるスピリチュアリティ研究の動向について概念分析結果を踏まえて検討し、研究から創出された日本の保健医療領域で用いられているスピリチュアリティの概念の構造について探求する。 （24 永田英子／2回） 死生学の観点から、全人的苦痛について分析し理解を深める。 （29 Taylor, E. J. /2回） 米国におけるスピリチュアリティ研究の動向を踏まえ、スピリチュアルケアについて探求する。	オムニバス方式
	看護教育学特論	（概要）看護教育制度および看護基礎・卒後・継続教育の現状を分析し、課題を明らかにする。看護学教育の対象理解に必要な成人学習理論、教育学の基礎理論を学習し、教育的機能発揮に必要な知識・技術を修得する。さらに、教育評価に必要な知識・技術、授業展開を支える理論・知識、実習指導に有用な知識・技術・研究成果を学習する。加えて、看護継続教育の充実に向け、「院内教育」の計画立案・実施・評価・改善に必要な知識・技術を修得する。	
	看護技術特論	（概要）看護技術の基本的概念や理論を理解し、様々な看護技術開発のため方法論を学ぶとともに、看護技術提供に潜む倫理的問題と配慮について考察する。看護基礎教育における技術教育の課題について現状を分析し、看護学生の看護技術能力の向上のための教材開発とその有効性と課題について検討する。さらに、看護を支援する工学機器に関する検証結果や、療養環境としてののにおいの研究結果をもとに、看護技術を開発する方法論を検討する。本科目の単位認定教員は後藤佳子である。 （オムニバス方式／15回） （ 4 ）後藤佳子／6回） 看護技術の基礎理論、概念を学び、技術開発について検討するとともに、看護基礎教育における技術教育の現状を分析し、看護学生の技術能力向上の教授活動について探求する。 （ 14 ）村上寛／5回） 看護技術の精度を向上するための装置の開発と効果の検証および、看護活動の負担軽減のための補助具の開発と検証について探求する。 （19 板倉朋世／4回） 看護技術のエビデンスについて、療養環境の快適性を高めるための、におい・かおりの評価・測定方法を取り上げ、考察する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目 普遍実践看護学分野	感染看護学特論	（概要）病原体の生物学的特性、宿主の防御機能（免疫機能）、抗菌薬などに関する知識を基礎として人類に甚大な影響を及ぼした感染症の歴史、近代医療における医療関連感染（院内感染）の歴史の変遷と今日的課題、及びその対策や今後の展望について学ぶ。また、感染症の予防対策としての生体防御機能や自己治癒力の活性化に関する心身相関の概念とその研究成果を学び、日常生活上の感染予防対策としての看護への応用について探求する。更に易感染宿主、特にがんや骨髄移植患者などの免疫機能が破綻した患者や高齢者に対する感染防御についても学識を深める。本科目の単位認定教員は齋藤ゆみである。 （オムニバス方式／15回） 5 齋藤ゆみ／10回 医療関連感染（院内感染）の歴史の変遷と今日的課題について概観し、免疫機能（治癒力）と栄養、運動、睡眠・騒音、免疫機能と生活習慣病や易感染性との関連について学ぶ。さらに、感染防御と腸管機能、自己治癒力について探求する。 （18 石橋芳雄／4回） 院内感染と抗菌薬、抗生物質の抗菌メカニズムについて学び、生体防御機能（自然免疫、獲得免疫、バリアー機能と粘膜免疫）について、感染防御の基礎知識をもとに理解を深める。 5 齋藤ゆみ・18 石橋芳雄／1回（共同） 感染看護の視点からみた生体防御機能と自己治癒力をテーマに自由討議とまとめを行う。	オムニバス方式 ・共同（一部）
	普遍実践看護学 演習ⅠA （事例分析）	（概要）普遍実践看護学分野における実践事例の分析を行い、看護実践を科学的・論理的・倫理的に分析する能力を修得する。事例を分析する一連の能力を身につけることで、自分の課題を明確にし、改善するための方法を探求する。学生は履修する各専門科目（特論）に沿って、下記に挙げる各科目（特論）のグループの中から1つを選択する。 【スピリチュアルケア】 9 本郷久美子／30回 スピリチュアルケアの実践事例の分析を行い、キリスト教人間学の視点に立脚したスピリチュアルケアの理論・概念を実践への活用を検討するとともに、対象への支援方法を探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。 【看護教育学】 7 鈴木美和／30回 成人を対象とした指導（場面）や授業（場面）の事例分析を行い、授業展開や教育評価に必要な理論・概念を教育実践への活用を検討するとともに、有効な教育を展開する方法を探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。 【看護技術】 4 後藤佳子・14 村上寛／30回（共同） 看護実践における技術活用の事例（場面）分析を行い、技術や技術教育を支える理論、概念を実践への活用を検討するとともに、技術開発や技術教育の課題や方法を探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。 【感染看護学】 5 齋藤ゆみ／30回 看護実践における感染事例を分析し、免疫機能（治癒力）と栄養、運動、睡眠・騒音、免疫機能と生活習慣病や易感染性との関連を検討し、感染防御と腸管機能、自己治癒力の向上について探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。	共同

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	普遍実践看護学 演習ⅠB （フィールドワーク）	（概要）普遍実践看護学演習ⅠAで学んだ内容および明らかになった自己の課題を踏まえて2事例のフィールドワークを実施する。フィールドワークでは、看護実践現場で得た学びを通して事例の理解をさらに深め、その後の自己の実践力の向上に繋げる能力を養う。学生は履修する各専門科目（特論）に沿って、下記に挙げる各科目（特論）のグループの中から1つを選択する。 【スピリチュアルケア】 9 本郷久美子／30回 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、スピリチュアルケアの基盤をなす理論・概念の理解を深め、実践力を高める。 【看護教育学】 7 鈴木美和／30回 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、成人を対象とした教育に必要な理論・概念の理解を深め、教育力を高める。 【看護技術】 4 後藤佳子・14 村上寛／30回（共同） 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、技術活用や技術教育を支える理論、概念の理解を深め、技術開発能力や技術教育力を高める。 【感染看護学】 5 齋藤ゆみ／30回 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、感染看護における免疫機能（治癒力）と栄養、運動、睡眠・騒音、免疫機能と生活習慣病や易感染性との関連への理解を深め、感染防御と腸管機能、自己治癒力を探求する。	共同
	普遍実践看護学 演習Ⅱ （文献講読）	（概要）各自の研究関心のある論文を講読し、論文のクリティークの学修とともに、研究テーマに関する最新の知見を得て、テーマの焦点化につなげる。学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、選択した専門科目（特論）のグループに分かれて授業を進める。学生が解説する文献を検索し、それを授業でプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。 【スピリチュアルケア】 9 本郷久美子／60回 スピリチュアルケアに関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。 【看護教育学】 7 鈴木美和／60回 成人を対象とした看護教育学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。 【看護技術】 4 後藤佳子・14 村上寛／60回（共同） 看護技術や看護技術教育に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。 【感染看護学】 5 齋藤ゆみ／60回 感染看護や免疫力を高めることに関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門科目	特定実践看護学分野 成育看護学特論	（概要）成育医療の対象である子どもと家族の看護に関する理論・概念・モデルの検討および国内外の研究成果の吟味を通じて、これらの人々が抱える複雑多様な課題状況の概念化および発達支援について検討し、子どもと家族のQOLを高める援助方法を探求する。本科目の単位認定教員は廣瀬幸美である。 （オムニバス方式／全15回） （8） 廣瀬幸美／9回 子どもと家族を生涯発達の視点からとらえ、成育看護に適用される諸理論について理解するとともに研究成果の吟味を通じて、子どもと家族の発達支援について検討する。さらに、先天性疾患とその家族への発達支援モデルの開発について探求する。 （12） 松崎敦子／6回 発達障害児とその家族のための発達支援モデルの開発とそれらを検証する研究方法論を検討する。	オムニバス方式
	成人看護学特論	（概要）慢性疾患の慢性性や不確かさが病者の療養生活や家族にどのような影響を与え、それに対するセルフマネジメントにどのような支援が有効か、について探求する。また、成人期に多発する生活習慣病に起因する脳血管障害の研究例を用いて、リハビリテーション看護各期における患者の特徴と支援を探求する。本科目の単位認定教員は鈴木純恵である。 （オムニバス方式／15回） （6） 鈴木純恵／7回 慢性病者が抱える慢性性や不確実性が療養生活にどのような影響を与え、それに対するセルフマネジメントにどのような支援が可能か、について考える。 （3） 奥宮暁子／5回 成人期に多発する生活習慣病に起因する脳血管障害の事例を基に、リハビリテーション看護各期における患者の特徴と支援の可能性について理解する。 （11） 今野玲子／3回 周手術期及び慢性疾患の急性増悪期や脳血管障害の急性期の対象の特性と支援の可能性について理解する。	オムニバス方式
	高齢者看護学特論	（概要）高齢者とその家族の健康と生活にかかわる基本概念および関連する諸理論を学ぶことを通して、高齢者の生活と健康を包括的に理解し、実践に還元するために必要な知識を修得する。また高齢者の介護予防や認知症ケア、高齢者施設における看護など、高齢者ケアにおけるシステム構築を探求する。さらに、自己の看護実践を理論や先行研究の成果を活用して分析・評価することを通して、より質の高い看護実践に向けた課題を考察する。本科目の単位認定教員は小川妙子である。 （オムニバス方式／15回） （2） 小川妙子／12回 高齢者とその家族を捉えるための基本概念、看護実践において活用できる諸理論を学ぶことを通して高齢者の生活と健康を包括的に理解し、実践に還元するために必要な知識を修得する。事例検討を通して認知症高齢者ケアの理論の活用について探究する。さらに高齢者看護実践における倫理的課題、高齢者のエンドオブライフケアと多職種協働について考察する。 （1） 市川光代／3回 高齢者の介護予防や認知症ケア、高齢者施設における看護など、高齢者ケアにおけるシステム構築を探求する。	オムニバス方式

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特定実践看護学分野 地域看護学特論	（概要）保健医療福祉制度の変遷と地域看護活動の歴史的発展を理解するとともに、地域の新たな健康課題に向けてケアシステムの開発、事業化、施策化について探求する。本科目の単位認定教員は丸山美知子である。 （オムニバス方式／15回） （10） 丸山美知子／10回 保健医療福祉制度の変遷と地域看護活動の歴史的発展について教授し、看護職が実践する事業化、施策化（実践例）のプロセスの分析を行うとともに、地域の健康課題と解決のための手法として、地域診断から保健計画までを行う。 （13） 松本浩幸／2回 地域における精神保健活動の実践について、地域ぐるみの取組みと在宅ケアの観点から考察する。 （20 齋藤泰子／3回） 在宅看護における基本となる理論・概論について教授し、在宅ケアにおけるアセスメントの過程・展開・評価について検討し、ケアプラン作成を行う。	オムニバス方式
	特定実践看護学 演習ⅠA （事例分析）	（概要）特定実践看護学分野における実践事例の分析を行い、看護実践を科学的・論理的・倫理的に分析する能力を修得する。事例を分析する一連の能力を身につけることで、自分の課題を明確にし、改善するための方法を探求する。学生は履修する各専門科目（特論）に沿って、下記に挙げる各科目（特論）のグループの中から1つを選択する。 【成育看護学】 （8） 廣瀬幸美・（12） 松崎敦子／30回（共同） 成育看護学の対象である子どもと家族の実践事例の分析を行い、発達理論、関係性理論、家族の理論、ストレスコーピング、セルフケア理論等の成育看護学の実践に必要な理論を実践への活用を検討するとともに、子どもと家族の発達支援ならびにQOLを高める支援方法を探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。 【成人看護学】 （6） 鈴木純恵・（3） 奥宮暁子・（11） 今野玲子／30回（共同） 成人看護学の対象である患者・病者・障がい者と家族の看護実践の事例分析を行い、急性期、慢性期、回復期の対象と家族への看護に必要な理論を実践への活用を検討するとともに、その支援方法を探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。 【高齢者看護学】 （2） 小川妙子・（1） 市川光代／30回（共同） 高齢者とその家族を対象にした看護実践の事例分析を行い、高齢者のセルフケア、自己効力感、エンパワーメントなどの理論を看護実践への活用を検討するとともに、認知症高齢者ケアや介護予防の援助方法を探求する。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。 【地域看護学】 （10） 丸山美知子・（13） 松本浩幸／30回（共同） 地域看護学（公衆衛生看護と在宅看護）での実践事例を分析し、地域の健康課題と解決のための手法、事業化・施策化のプロセスを実践への活用を検討するとともに、在宅ケアにおけるケアマネジメントなどの理論を実践への活用からも事例の理解を深める。これらの学修を通して自分の課題を明らかにする。	共同

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
専門 科目	特定実践看護学 演習ⅠB （フィールドワーク）	（概要）特定実践看護学演習ⅠAで学んだ内容および明らかになった自分の課題を踏まえて2事例のフィールドワークを実施する。フィールドワークでは、看護実践現場で得た学びを通して事例の理解をさらに深め、その後の自分の実践力の向上に繋げる能力を養う。学生は履修する各専門科目（特論）に沿って、下記に挙げる各科目（特論）のグループの中から1つを選択する。 【成育看護学】 8 廣瀬幸美・12 松崎敦子／30回）（共同） 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、成育看護学の理論・概念の理解を深め、実践力を高めることに繋げる。 【成人看護学】 6 鈴木純恵・3 奥宮暁子・11 今野玲子／30回）（共同） 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、成人看護学に有用な理論・モデル・概念の理解を深め、実践力を高めることに繋げる。 【高齢者看護学】 2 小川妙子・1 市川光代／30回）（共同） 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、高齢者とその家族の看護に必要な理論・概念の理解を深め、実践力を高めることに繋がる。 【地域看護学】 10 丸山美知子・13 松本浩幸／30回）（共同） 演習ⅠAで明らかにした自分の課題に関連するフィールドワークを実践し、地域看護学（公衆衛生看護と地域看護）の基礎となる理論・概念の理解を深め、実践力を高めることに繋げる。	共同
	特定実践看護学 演習Ⅱ （文献講読）	（概要）各自の研究関心のある論文を講読し、論文のクリティークの学修とともに、研究テーマに関する最新の知見を得て、テーマの焦点化に繋げる。学生の関心に沿って、テーマを選択履修し、選択した専門科目（特論）のグループに分かれて授業を進める。学生が読解する文献を検索し、それを授業でプレゼンテーションし、その後、討論を通して、当該研究に対する理解を深める。 【成育看護学】 8 廣瀬幸美・12 松崎敦子／60回）（共同） 子どもと家族を対象とした成育看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。 【成人看護学】 6 鈴木純恵・3 奥宮暁子・11 今野玲子／60回）（共同） 成人と家族を対象とした成人看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。 【高齢者看護学】 2 小川妙子・1 市川光代／60回）（共同） 高齢者とその家族を対象とした高齢者看護学に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。 【地域看護学】 10 丸山美知子・13 松本浩幸／60回）（共同） 地域の住民を対象とする地域看護学（公衆衛生学と在宅看護学）に関連する研究論文を講読し、当該研究の内容と方法に対する理解を深め、研究テーマの焦点化に繋げる。	共同

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科目	特別研究Ⅰ	（概要）特別研究は、修士論文を完成するまでのプロセスを2段階に分け、特別研究Ⅰ、Ⅱとして学修する科目である。 本科目は、1年次の通年科目であり、特別研究Ⅱに対して、研究の前半に位置づくものである。本科目では、研究課題の焦点化から研究計画書の完成までとし、学修方法は、研究科で定めた研究計画に沿って行う。一連の研究プロセスを通して、看護実践の場における改善・向上に寄与する基礎的な看護研究能力の学修を目指す。 各担当教員の研究指導課題は、次の通りである。 ①市川光代） 加齢に伴う身体機能の低下や生活障害を持つ高齢者の持てる力を活用し、その人にとっての意味ある日常生活や社会生活が送れるよう支援することを研究課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ②小川妙子） 認知症高齢者への支援や健康問題を持つ高齢者への自己管理の支援に関する質的研究および高齢者施設や在宅における高齢者の療養生活の支援に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ③奥宮暁子） リハビリテーションを必要とする課題をICFの枠組による明確化、さらにそれに基づく支援方法を研究課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ④後藤佳子） 看護技術を学ぶ学生が、講義や実習などを通して技術を習得するための教育方法を研究課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ⑤齋藤ゆみ） 術後患者や高齢者などの易感染性宿主に対する院内感染対策や感染予防としての生体防御機能の活性化に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ⑦ 篠原清夫） 社会調査方法論、職業的社会化、社会的排除等の社会問題に関する研究を課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ⑥鈴木純恵） 障がいを抱える慢性疾患患者の体験を理解するための質的研究および行動理論を援用したセルフケアの再獲得を促進する看護援助に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 ⑦鈴木美和） 訪問看護師の看護実践上直面する問題を解決するための質的研究およびツール開発を基に実践能力向上に必要な教育に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	特別研究Ⅰ	（10 高橋義文） 看護の対象である人間の問題をめぐる哲学的・キリスト教的視点に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 （8 廣瀬幸美） 先天性疾患や慢性疾患のある子どもと家族の健康課題に応じた支援方法およびその療養行動に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 （9 本郷久美子） 全人的看護の基礎にあるスピリチュアルケアの機能やその内容の解明に向け、各領域に普遍的に存在するスピリチュアルケアの要素を研究し研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 （10 丸山美知子） 保健師の基礎及び現任教育、保健師活動、保健師能力特に施策化に関する課題を研究し、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 （11 今野玲子） 周手術期にある成人・高齢者の体験を理解するための質的研究および看護師による支援方法を研究課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 （12 松崎敦子） 発達に遅れや偏りがある子どもと家族を対象にした包括的支援プログラムの開発と普及を研究課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。 （14 村上寛） 看護技術精度の向上や看護活動の負担軽減をサポートするための装置の開発と効果を研究課題とし、研究課題の焦点化から研究計画・立案ができるよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要			
（看護学研究科看護学専攻）			
科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研 究 科 目	特別研究Ⅱ	（概要）本科目は、特別研究Ⅰに引き続き、2年次の通年科目であり、特別研究の後半として位置づくものである。本科目の到達目標は、修士論文の完成とその発表までとする。その間の研究プロセスとしては、研究倫理委員会より承認が得られた段階から、研究計画書に沿って、計画した対象からデータを収集・分析し、これらをもとに研究論文の要件を充たすよう完成し、発表する。 各担当教員の研究指導課題は、次の通りである。 ①市川光代） 加齢に伴う身体機能の低下や生活障害を持つ高齢者の持てる力を活用し、その人にとっての意味ある日常生活や社会生活が送れるよう支援することを研究課題とし、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 ②小川妙子） 認知症高齢者への支援や健康問題を持つ高齢者への自己管理の支援に関する質的研究および高齢者施設や在宅における高齢者の療養生活の支援に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 ③奥宮暁子） リハビリテーションを必要とする課題をICFの枠組による明確化、さらにそれに基づく支援方法を研究課題として、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 ④後藤佳子） 看護技術を学ぶ学生が、講義や実習などを通して技術を習得するための教育方法を研究課題とし、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 ⑤齋藤ゆみ） 術後患者や高齢者などの易感染性宿主に対する院内感染対策や感染予防としての生体防御機能の活性化に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 ⑦篠原清夫） 社会調査方法論、職業的社会化、社会的排除等の社会問題に関する研究を課題とし、研究計画書に沿って、保健医療福祉事象への調査票調査を用いたデータ分析による社会学的解明に関する研究指導を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 ⑥鈴木純恵） 障がいを抱える慢性疾患患者の体験を理解するための質的研究および行動理論を援用したセルフケアの再獲得を促進する看護援助に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を充たす修士論文を完成できるよう指導を行う。	

授 業 科 目 の 概 要

（看護学研究科看護学専攻）

科目 区分	授業科目の名称	講義等の内容	備考
研究 科目	特別研究Ⅱ	(7) 鈴木美和) 訪問看護師の看護実践上直面する問題を解決するための質的研究およびツール開発を基に実践能力向上に必要な教育に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (10 高橋義文) 看護の対象である人間の問題をめぐる哲学的・キリスト教的視点に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (8) 廣瀬幸美) 先天性疾患や慢性疾患のある子どもと家族の健康課題に応じた支援方法およびその療養行動に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (9) 本郷久美子) 全人的看護の基礎にあるスピリチュアルケアの機能やその内容の解明に向け、各領域に普遍的に存在するスピリチュアルケアの要素を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (10) 丸山美知子) 保健師の基礎及び現任教育、保健師活動、保健師能力特に施策化に関する課題を研究し、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (11) 今野玲子) 周手術期にある成人・高齢者の体験を理解するための質的研究および看護師による支援方法を研究課題とし、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (12) 松崎敦子) 発達に遅れや偏りがある子どもと家族を対象にした包括的支援プログラムの開発と普及を研究課題とし、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。 (14) 村上寛) 看護技術精度の向上や看護活動の負担軽減をサポートするための装置の開発と効果を研究課題とし、研究計画書に沿って、データの収集・分析等研究活動を行い、研究論文の要件を満たす修士論文を完成できるよう指導を行う。	

学校法人 三育学院 設置認可に関わる組織の移行表

平成31年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	平成32年度	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	変更事由
三育学院大学 看護学部 看護学科				三育学院大学 看護学部 看護学科				
	50	-	200		50	-	200	
計	50	-	200	計	50	-	200	
三育学院大学 大学院 看護学研究科				三育学院大学 大学院 看護学研究科				大学院設置(認可申請)
					5	-	10	
看護学専攻(M)				看護学専攻(M)				
					5	-	10	
計				計	5	-	10	
専門学校 三育学院カレッジ 神学科				専門学校 三育学院カレッジ 神学科				
	21	-	50		21	-	50	
計	21	-	50	計	21	-	50	